

職員用端末へ Linux シンクライアント型システム導入
グループウェア等に OSS プロダクトを採用
～将来的なコスト削減と国際標準規格の採用による BCP を視野に～

システム開発の株式会社ティー・ユー・シー（北海道札幌市、代表取締役：石川久紀）及び、オープンソースシステム構築の有限会社サンビットシステム（北海道札幌市、取締役：佐々木伸幸、以下「サンビットシステム」）は、特別地方公共団体苫小牧港管理組合（北海道苫小牧市、管理者：苫小牧市長 岩倉博文）より、シンクライアント型システムを中心としたネットワーク構築業務を受託し、職員用端末として 60 台余りの Linux（リナックス）によるシンクライアント型システム、仮想化サーバを含む 18 台の Linux サーバシステムを納入しました。

このシステムは 2011 年 7 月より構築を始め、2012 年 4 月より運用を開始しました。

Linux は、OSS（オープンソースソフトウェア）と呼ばれるコンピュータの OS（基本プログラム）で、誰でも自由に利用でき、プログラムの変更も自由なソフトウェアです。

シンクライアント型システムは、利用者が直接使用するパソコン（クライアント）にはハードディスク（機械的な記憶装置）を持たず、ソフトウェアの利用、データ管理等を、処理能力の大きな別のコンピュータ（サーバ）に任せる仕組みです。

苫小牧港管理組合で採用した「LTSP（エル・ティー・エス・ピー：Linux Terminal Server Project）」と呼ばれるシンクライアント型システムは、クライアントで起動する OS もサーバが供給します。これにより、OS のアップデートやソフトウェアの更新をサーバ側で管理することができます。「LTSP」の採用により、クライアントを省電力化できること、機械的な記憶装置がないため故障率が低減することに加え、利用者端末追加時の設定が不要になるなど、台数が多い利用者端末の導入運用で大きなコスト削減効果を見込むことができます。

アプリケーションでは、オフィスソフト（表計算、ワープロ等を統合したもの）に OSS である「LibreOffice」を採用しています。「LibreOffice」の文書形式は、国際標準規格である「ODF（オープンドキュメントフォーマット）」に準拠しており、他のオフィスソフトでも採用されています。またオフィスソフト以外の文書交換形式についても、これまでのソフトウェアベンダ（ソフトウェアを制作配布する事業者）の独自形式から「PDF（ポータブルドキュメントフォーマット）」形式へ変更しています。国際標準規格に準じた文書形式の統一は、将来的にソフトウェアベンダ独自の文書形式が製品廃止等により読めなくなるといったリスクを回避し、事業継続性に貢献すると見込んでいます。

グループウェア等のコミュニケーションシステムには「Joruri（じょうり）」を採用しています。「Joruri」は徳島県と徳島県内の事業者により開発された CMS（シーエムエス：コンテンツマネージメントシステム：WEB サービスの情報管理システム）、グループウェア、WEB メールシステムで構成される WEB アプリケーションで、OSS として一般公開されています。「Joruri」の採用に伴い、アカウント管理システムに LDAP（エルダップ：読み込みに特化したデータベース）を導入し利用者のアカウントを一元管理しています。これにより、毎年定期的に発生する人事異動に伴うアカウント管理コストが大きく削減できることを見込んでいます。

システムの設計構築を担当したサンビットシステムは、今回納入したシステムは公共団体として OSS を主体に採用した例として、他の団体の参考事例になると考えています。OSS は自由に利用できることから、採用する場合のコスト低減に有効なばかりでなく、公共性の高い社会的資産の活用でもあると位置付けています。但し、既存資産や文書交換の互換性等の問題も皆無ではないため、今後も納入したシステムをサポートし、お客様だけでなく OSS が持つ社会的意義へのフィードバックも行えるよう配慮していくつもりです。

■本件に関するお問い合わせ先

有限会社サンビットシステム 佐々木

Tel: 011-598-1800 Fax: 011-598-1801 E-mail: ossdesk@3bit.co.jp